

講演録「人生いろいろ面白きかな人生」(その一)

80歳で感じると思うこと考えること

ビューティフルエイジング協会お話の会講演原稿

2018年4月17日10時～11時30分

星稜会館 東京都千代田区永田町

註、ビューティフルエイジング協会 中高年がその経験および能力を生かして有意義な人生を送る(ビューティフルエイジング) ことに関する調査・研究、指導・相談、情報収集・提供等を行うことにより、豊かな国民生活の実現と我が国経済の発展に寄与することを目的とした団体です。

本日はビューティフルエイジング協会のお話の会にお招きいただき有難うございます。私はビューティフルエイジングというのはいいい言葉とと思いました。

エイジングといえはまずアンチエイジングが頭に浮かびますが、歳を取ることに^{あらがう}抗うというのに抵抗を感じます。格好よく年を取ろうというスタイリッシュエイジング、生涯現役というプロダクティブエイジングという言い方もありますがちょっと背伸びした感じがします。

そこそこに元気に楽しくというヘルシイエーキング、ウェルエイジング、更にスマートエイジングという言い方もありますが、これらはエイジングを受け入れたうえでヘルシイに、ウェルに、スマートに年を取ろうということで素直な感じがします。しかし、よりウェルに、よりスマートにも含めさらに、美しく年を重ねていこうということでビューティフルエイジングはいいネーミングだと思います。

ところで、私は昭和9年生まれ、昭和ひとケタ生まれの最後でございますが、83歳になります。83歳になりますと、さすがにボケも少し始まっておりますので、今日はお話を始めても系統立って話ができるかどうか心配をいたしまして、最初にお話ししたい項目をお示ししておきたいと思っております。

一、演題解説「人生いろいろ 面白きかな人生」

二、80歳になって感じると思うこと考えること

1、「いくることようやく楽し老いの春」

後期高齢者＝光輝好齢者＝好奇高齢者

「生きることが生き甲斐老いの冬」

「日々是好日」

2、ノーベル賞受賞者の言葉

他人のやらないことをやれ(人生いろいろ)

人生は出会い

人間万事塞翁が馬

3、100歳時代の老後の備え

健康、お金、人生哲学

私の健康法 百病息災

私の資産形成

人生哲学

三、結び

それでは演題解説から始めます。

一、演題「人生いろいろ 面白きかな人生」解説

講演をさせていただききっかけは、私が平成 25 年に「反面教師」という本を出したことです。平成 27 年に、「反面教師」の読者の方が、講演会を企画していただきました。その時、最初は、演題は「著書『反面教師』を語る」と考えました。ところが、私の友達から『反面教師』の本について、二つ辛口の批評をいただいたことを思い出しました。一つは皆さん見ていただきますと分かるように、赤い表紙に白い文字ですね。ところが、これが中国の毛沢東の頃に文化大革命というのがありまして、紅衛兵が『毛沢東語録』をもって活動したわけです。いろいろなつるし上げをした。そんな悪い本を連想するじゃないかと。

なお、「反面教師」という言葉は古来の中国にはなく、毛沢東が使い始めたものです。自分と考えの合わないものを組織から排除するのではなく、組織内にとどめて悪い見本として叩こうというものです。一寸陰湿な感じですね。



ところで私がこの本で先ず自慢したいところは表紙でした。これは私が紅葉の名所を撮っておりますが、この表紙を自慢したかったのですが、辛口の批評は表紙が悪いと。

二つ目に、『反面教師』の中身が分からんと。そういうことで、これを見ていただきますと分かりますように、インターネットで調べましたら、「反面教師」という題の本が三冊ありました。左上側が私の本ですね。下段の二つ目、三つ目の「反面教師」はそれぞれに副題が付いているんですよ。

下右の本には「人のフリ見て我がフリ直せ」と。これは弁護士さんが自分の扱った事件から実話をもとにして書いていて、非常に面白い。私の本よりも参考になります。それから左の『反面教師』は、「組織の頂点に立つ権力者の盲点」というサブタイトルが付いているわけですね。こういうふうにサブタイトルが付いている方がいいじゃないかということで、私の本にサブタイトルを付けるとすると、どういうことになるかということですが……。辛口の批評をしてくれたひとは、自分ならばこの本の題名はずばり武者小路実篤スタイルで「面白き哉人生」こう付けるよということだったんですね。

この人は歌を贈ってくれました。

「面白き 書をひきつける 面白き タイトルあれば なお豊なり」

それから次の歌は、私の名前をぜんぶ折り込んであります。

「キラキラと 才鏤めた 技さえる 煉熟の書に しばし魅せられ」。

非常に才気溢れる短歌を作ってくれた人なのですが、それで私は演題を「面白き哉人生」としようと思いました。人生という言葉が出てきてすぐ連想したのが、「人生いろいろ」。島倉千代子の「人生いろいろ」という歌を連想しました。それで演題は「人生いろいろ 面白きかな人生」と、こういうことになったわけです。わたくしはこの演題が気に入りましたので、本日の演題も「人生いろいろ 面白きかな人生」とさせていただきます。

ところで、『反面教師』は、20年間の間に書き溜めてきたエッセイを纏めたものです。内容も古くもなっておりますし、今の時点では別の考えもありますので、今日は『反面教師』から離れて、80歳になって感じる事、思う事、考える事を中心にお話しさせていただきたいと思います。

それでは最初は「人生いろいろ」について。美空ひばりの「愛 燦爛」の中に「人生て不思議なものです」とありますが、「人生」という言葉を使った歌はたくさんあります。演題としまして、「人生いろいろ」なんて歌の題名か、少し軽すぎるのではないかと思いましたが。元首相の小泉純一郎さんですね、この方はなかなかユニークな話し方をされますが、「人生いろいろ 会社もいろいろ 社員もいろいろ」ということを国会答弁で真面目に答えておられたんですね。そういうふうに「人生いろいろ」は使われているわけですが、よく考えてみますと、「人生いろいろ」というのは、そう軽い言葉ではないんです。十分裏付けのある言葉でございます。

まず三点申し上げますが、百寿者 800人の調査、百歳以上の方々に長寿の秘訣を訊こうということで調査したものがああります。どういう信念をおもちですか、健康の秘訣とか、いろいろ聴いたんですね。800人にも訊けば一つの長寿の秘訣が導かれるのではないかと思いましたが、800人に共通していたのは、健康で長生きしていたということだけだったんです。他は800人800様、百寿者の人生は、人生いろいろなんですね。という事で、「人生いろいろ」という言葉は軽くないことが実証されているわけです。これが第一の根拠です。

なお、今年の一月に出版された「NHKスペシャル取材班百寿者の健康の秘密がわかった人生100年の習慣」(講談社刊)のエピローグに次のような記述があります。

「人生の中で大切にしてきた考えや、生きる指針はありますか」

(百寿者への) インタビューで必ず尋ねることにしていたこの質問に対して、あるセンテナリアンがこう答えました。

「自分が自分のボスであること」

言い換えれば、自分のことは自分できめる、というごく単純なことな事なのですが、この言葉が妙に私の心を打ったのです。

百寿者の人生がいろいろに通じるものがあると思います。

二つ目の根拠は、五木寛之をご存じの方は多いと思います。昭和平成を代表する作家は、私は司馬遼太郎と五木寛之さんではないかと思えます。司馬遼太郎はご存じのように、『この国のかたち』とか歴史物とか、いろいろ硬いものと言いますか、そういう方面を書いておられ、五木さんは『生きるヒント』シリーズとか『他力』とか『大河の一滴』、要するに人生の生き方といったことを中心にエッセイを書かれておられます。

この五木さんが書かれたものに『人生の目的』という本があります。その中でこんなことをおっしゃっておられます。「『人生の目的』はあるのか ない。万人に共通の目的などというものはない。すべての人間に上からおしつけられるような、一定の目的などない。」人間を一人ひとりまったく違う存在として、五木は考えているよと。

「そしてそこにこそ人間の価値があるのではないか。この私は(五木先生は)人類の一員でもあり、また同時に、世の中の誰とも違う個人なのである。人生の目的は『自分の人生の目的を見つけるのが、人生の目的』である。自分だけの『生きる意味』を見出すこと」が人生の目的ではないか。要するに「人生いろいろ」であっていいというようなことを言われているわけです。二つ目の根拠としては、五木先生のこの言葉からも人生はいろいろであっていいということだと思います。

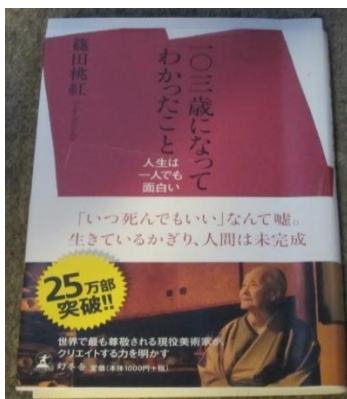
さらに三つ目の根拠と私が考えておりますのは、今度は毛色が変わりまして、仏教哲学、この方はひろさちやさんとおっしゃいますが、坊さんではございません。仏教学者です。東大の印度哲学を出られた方で、大乘仏教の真髓を平易かつユーモア溢れる文章と明晰な論理で語り、数多くのファンをもつ先生であります、その先生が書いておられます。

仏教の基本的な考えは、「諸法実相」、「諸」というのはもろもろの意味ですね。「法」は法律の法ではなくて、存在するものという意味があるらしいんですね。すべての存在が真実であり、それはそのまま最高の価値

をもっているという思想。かくあらねばならないという考えとは両立しない。仏教というものは、つまるところ「なんだっていい」「どう生きたっていい」、これが仏教の基本思想、諸法実相だとおっしゃっています。要するに、「人生いろいろ」ということをいっておられるのだろうと思います。こういうようなところから、私は今になって「人生いろいろ」という演題は、いいネーミングだと思っているわけです。

さらに別の角度で生物学者の立場から言うと、ノーベル生理学賞をもらった利根川進博士の講演がありまして、「脳とコンピューター」という題名のだいぶ古い講演ですが、その中で利根川先生が言われていることは、人類には多様性が必要であるということをおっしゃられます。「僕が心配するのは、要するに人類は均一化していることなのです。コンピューターで世界中の子供が同じ情報を頭に入れて育つと、ますます均一化します。種の均一化というのは非常に危ないわけです。生物にとっては多種多様であればあるほど、環境に大きな変化があった時に生き延びる個体の数の頻度が高いわけです。それが今、人間の脳は均一化の方向へ向かっている。だからそれが理由で人類というのは減るのではないかと思うのです」と。無理に解釈しますと、生物多様性、人類多様性が必要だと、人生いろいろあっていいんだということをおっしゃられるのだと思います。そういう意味で、あえて四番目に付け加えさせていただきました。

硬い話で無理に「人生いろいろ」という演題がいいぞということを申し上げたわけですが、実際の人生でいろいろと実感することがございました。一昨年ベストセラーになった本に篠田桃紅さんが出された『103歳になってわかったこと』—人生は一人でも面白い』、これは25万部を突破したベストセラーです。それから、ミヤコ蝶々さんは『女ひとり』という本を出しておられます。これは50年前の本です。



篠田東紅さんは大正二年(1914年)生まれで、現在104歳でご健在でいらっしゃいます。生涯独身。ちなみに、ミヤコ蝶々さん(1922年7月6日～2000年10月12日)は三回結婚して三回離婚したという方です。篠田さんが独身主義者かと言うと、そうではないんですね。結婚するなら納得できる男性と結婚したいということをお考えおられましたけれども、娘盛りの頃は戦時下で相手がいなかったということなんですね。それで結果として生涯独身となったわけですが、一人で生活をする糧として、書道の先生になられた。墨を扱って水墨の色に魅せられて水墨による抽象画の分野を開拓された方です。現在、世界最年長の芸術家として評価されている人です。この方は『人生は一人でも面白い』という本を書かれているわけですが、若い頃の姿(写真上)をテレビで見ることがありますが、NHKの書道の講座に出ておられたことがあって、綺麗な先生だなと思いました。下の写真は103歳のお写真、作品はこういう作品なんですね。「月」という題名になっています。左下は珍しく赤い色が付いていますが、これはホテルのロビーに架けられている画だそうですが、こういう作品も残しておられます。篠田桃紅さんの本からピックアップしますと、「人には柔軟性がある。これしかできないと、決めつけない。完璧にできなくたっていい。人生の楽しみは無尽蔵」「幸福になれるかは、この程度でちょうどいい、と思えるかどうかにある。いいことづくめの人はいない、一生もない」とおっしゃられます。

ミヤコ蝶々は、ご存じの方も多いと思いますが、「夫婦善哉」の司会で人気がありましたですね。旅芸人の娘さんですから、学校にまともに行っていないんですね。それにも関わらず、脚本を書いたり、文章を書いたりして

おられるのですが、漫才の相方に「何という字」とよく訊いていた。それで相方の芸名が「南都雄二」になったんですね。南都雄二はミヤコ蝶々さんと別れで再婚をしたんですが、病気になって捨てられてしまった。その後、ミヤコ蝶々さんが南都雄二の最後の面倒を見たという数奇な人生を歩まれた。三回男と巡り合って、三回別れて、最後は捨てられた男の面倒をみた。こういう人生を送っておられます。『女ひとり』の序文に「男でも女でも、人間はみんな一人ぼっちではないでしょうか。生まれるときも、死ぬときも一人です。そして、その短いつかの間の人生の間に、二人になったり、また一人になったり、泣いたり、笑ったり、怒ったりそんな繰り返しの波があるから、そこに生きる強さと喜びを感じるものです」と言っておられます。同じ女性でも、篠田さんと蝶々さんでは、いろいろな人生があるものだと感じたわけです。

お手許に資料（省略）として、人生の名言をお付けしておりますけれども、その名言の中から二人の言葉を、ご紹介したいと思います。

シェクスピアの

「世の中には幸も不幸もない。ただ、考え方ひとつだ」

「金は借りてもならず、貸してもならない。貸せば金を失うし、友も失う。借りれば儉約が馬鹿らしくなる」

「愚者は己が賢いと考えるが、賢者は己が愚かなことを知っている。愚かな知恵者になるよりも、利口な馬鹿になりなさい」

この中で私が共感するのが、「貸せば金を失うし、友も失う」、これに私が付け加えるならば、「いのちも失う」と。最近、殺人事件で、貸した相手から殺されるということがありますね。人間関係で金の貸借を巡っての争いがあります。借りる時には貸してくれてよかったということではありますが、そのうち返せなくなると、相手が憎くなる。中には殺してしまう。これが一つや二つではなくて、しょっちゅう事件が起こっています。金を貸せば、友も失うだけでなく、いのちも失う、と私は付け加えて説得力が増したと考えているわけでもあります。友人関係で金のトラブルが一番嫌ですね。金を貸す時には、友達から 10 万円貸してくれと言われたら、10 万円をくれてやる。本当は友人関係でも金の貸し借りはしないほうが一番いいのではないかと思います。

二つ目に紹介するのはチャップリンの

「人生は、怖がりさえしなければ素晴らしいものになる。人生に必要なものは、勇気と想像力。それとほんの少しのお金だ。」

これは映画「ライムライト」の中で若い女優で人生に希望を失くしている女性にチャップリンが言ったわけですね。私はどういう訳か「人生に必要なのは、希望とサムマナー」だと思っていました。サムマナーというのは幾らくらいをいうのかなと。20代の時に考えるサムマナーと、40代のサムマナー、70代ではどれくらいか、80代では金額が違うと思いますが、サムマナーが幾らなのかは、私がずっと抱えている宿題でございます。後ほど、老後に備えるという話の中で、サムマナーの話を出したいと思います。原語は「A little dough」と書いてあります。私は中学・高校では結構勉強したのですが、「dough」という単語はぜんぜん覚えておりません。これは俗語で銭という意味らしいんですね。そういう言葉が使われていました。これは私の永久の宿題で、サムマナーというのが幾らくらいなのか、お訊きしたいところであります。

(以上 その1)